

式 辞

たたいま、卒業証書を授与いたしました316名の皆さん、卒業おめでとございます。

2021年3月11日、感染症の出口がなかなか見通せない中、そして、震災から十年、節目の日の卒業式となりました。本日、来賓の方や在校生の参加が叶わないことは残念ではありますが、保護者の皆さんと共に、晴れの門出を、お祝いすることができるのは、何よりの幸せと感じております。

卒業生の皆さんは、これまで小・中・高校と長きにわたり、学校生活を送ってきました。朝、登校し、ホームルームで出席をとり、授業を受ける。放課後になると、掃除をし、部活に行く。感染症拡大の影響でそんな生活が、1年前からいつも通りで出来なくなりましたが、「ピンチはチャンス」、皆さんは下を向かず、「まっすぐに」前を向き、柔軟性を持って「しなやかに」対応してくれました。皆さんは、よく頑張った。そして、強くなった。明日からは、それぞれの選択に基づき、自由度が高いけれども、自己責任が問われる新たな生活が始まります。

本日、熊谷女子高校を巣立っていく皆さんに、心を込めて式辞を述べたいと思います。

世界中が疲れています。日本中が不安を感じています。この予測不可能な社会に直面している今、私たちは、十年前の震災から立ち上がったあの時と同じように、心を一つにして、支え合うことの大切さを、肝に銘じてはなりません。皆さんが向かう社会は、様々な課題が一つの国では解決できないグローバル化の時代であります。このグローバル社会で不可欠なのが、ダイバーシティ、多様性を受容することです。しかしながら、近年、アメリカにおける警察官の黒人への根強い差別、軍事政権誕生に揺れるミャンマーやその周辺国におけるロヒンギャの問題など、人種・民族に係わる事件等が後を絶ちません。さらに、国内に目を転じれば、女性活躍時代の到来に水を差すようなJOC会長の辞任。そして、3月8日の国際女性デーに合わせて発表された世界各国における女性国会議員の割合では、日本は世界で166位、G7先進7か国では、100位以下は日本だけというショッキングなニュースもあります。

皆さんは、熊女の3年間で、お互いを認めあい、共感し、高め合うことの大切さを学びました。友人の幸せを祈り、成功を称え、また、友人をねぎらい、感謝の言葉を口にできる、正に「地頭のよい」人に成長しました。

人間は一人では決して生きていけません。だからこそ、将来、日本のみならず国際的に活躍される皆さんには、自分が何者であるかを大切にするとともに、他者をかけがえのないものとして、多様性を認め、切磋琢磨できる人間関係を、様々な場面で築いて欲しいと思います。

埼玉県の三偉人であり、現在放送中の大河ドラマ『青天を衝け』の主人公渋澤栄一は、「日本経済の父」と呼ばれています。彼は、とかく利益優先になりがちな経済活動に関して、私利私欲を否定し、「道徳経済合一説」を唱え、道徳・道徳が伴わなければ真の経済活動は育たないと訴えました。

県北の地に生まれ、日本経済、さらに広く国際親善にも尽力した渋澤栄一の、「自分の幸せは、他人の幸せ」という、「共に生きる」という精神を、皆さんも心のどこかに留めておいて欲しいと思います。

ここにいる皆さんが、そう遠くない将来、我が国の政治・経済・文化・教育など様々な分野で、生き生きと活躍する姿に出会ったり、さらには、世界各地で多様な人達と、「共に生きる」関係を築きながら活躍している話題を耳にすることを心から楽しみにしています。

ここで保護者の皆様に申し上げます。本日はお子様のご卒業、誠にありがとうございます。これまでの、本校教育活動へのご理解とご協力に、深く感謝申し上げますとともに、今後も、変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

それでは、卒業生一人一人が、今後の人生において、最高の花を咲かせてくれることを願い、私の式辞といたします。